

佳作

私が私に届ける手紙

青森県深浦町立深浦中学校

3年 西沢 愛月

今、私は何をしていましたか。高校や大学、専門学校などでは青春できましたか。しかし、楽しいことばかりではなかったのではないかと予言します。そして、一番聞いてみたかったことがあります。それは、どんな職業について働いていますか。聞きたすぎてウズウズしています。なので、私と10年後の私で話しましょう。

14歳だった私は義肢装具士になるのが夢でした。なぜなら、私のように装具などがあることで生活できている人もいると思うし、義足や義手などを付けてスポーツ選手として活躍している人たちを見て（すごいな）とも思ったからです。逆に、義肢装具士という職業がどこにもなかったら、障がい者が不便な生活を送ってしまうし、自由すらなくなってしまうかもしれない。そんな障がい者にとって大きな存在を多くの人に知ってもらい、その一員になりたかったからです。

その夢をかなえるための目標について語り合いましょう。中学3年の私の目標は、やはり「高校受験に合格すること」が大きかったです。合格しているかどうか未来のことなので私にはわかりません。合格しましたか？面接では緊張せずに会話することはできましたか？などなどいろいろ教えてください。その他にも目標はたくさんありますが、一つ話させてください。私の人生の大きな目標は、「障がい者を障がい者が助ける」ことでした。障がいがある人は夢や目標が少ないと思うかもしれないけれど、実は大きな夢や目標を持っている人もいます。そんな夢や目標を堂々と言えない人もいます。だから堂々と言える環境や社会になるように健常者と障がい者との壁をなくし自然な空間を広めていきたいというのが大きな大きな目標でした。障がい者だから見える世界やわかることが絶対あると思っていました。今、手紙を読んでいる私はもしかしたら、義肢装具士ではない職業に就いているかもしれませんね。どんな職業に就いていてもいいので、「障がい者を障がい者が助ける」という大きな目標を忘れずにいてほしいです。そして、障がい者の社会を変えられる一員になることを信じています。逆に未来の私になるために何をすることが大事ですか？アドバイスをください。

私は、障がい者だからといって重要な職業に就けないことはないと思うています。確かに、どうしても障がい者は健常者よりもできることは少ないで

す。だからといってできることが何もないわけでもありません。今の私ができることを全力でやり遂げられていて、それが自分のためにも誰かのためにもなっていれば、大きな夢だって持っていていいと思います。未来の私は、どのような気持ちでどんな夢を持っているのかわかりませんが、（障がい者だからムリ）という気持ちは持ってほしくないし、持たせてほしくありません。逆に、障がい者だからこそ持つことができる大きな夢や目標、可能性を持つ人になってほしいです。障がい者だからという理由で夢や目標をあきらめないでください。14歳の私も頑張ります。

14歳の私からのお願いがあります。一つ目は、手伝ってもらったら感謝を忘れず「ありがとう」という言葉を返してください。そして、感謝した分以上に感謝される人になってほしいです。しかし、感謝されると書きましたが、感謝されるのを求めたり、無理やり手段を見つけないで、自然に手を差し伸べ、恩返しする気持ちで行動してほしいです。言うまでもなく、できていると信じています。二つ目は、自分に厳しい自分でいてほしいです。高い目標を持って達成できるように行動し、さらに責任感が強い私になってほしいです。これは14歳の私へのメッセージでもあるのでお互い頑張りましょう。三つ目は、自分が今できること全てに全力を尽くしてほしいです。これは、一つ目と二つ目のことにも繋がりますが、自分のためにも誰かのためにも全力で行動できる私になりたいのでこれもお互い頑張りましょう。四つ目は、意志の強い私になることです。これは十四歳の私の義肢装具士という夢や健常者と障がい者の壁をなくすという大きい目標を達成するために大切だと思いました。だから、お互いに今からできることを考えていきましょう。

というように14歳の私は思っていました。話し合っている私は今、何をしていたりどんな夢や目標を持っていたり、どのような気持ちで毎日を送っているのかまったくわからない私ですが、少しでも「こんなこと書いたなあ」みたいなことを言っていると嬉しいです。そして1ミリでもそんな夢や目標をかなえたり、かなえようとしているとさらに嬉しいです。

14歳の私より